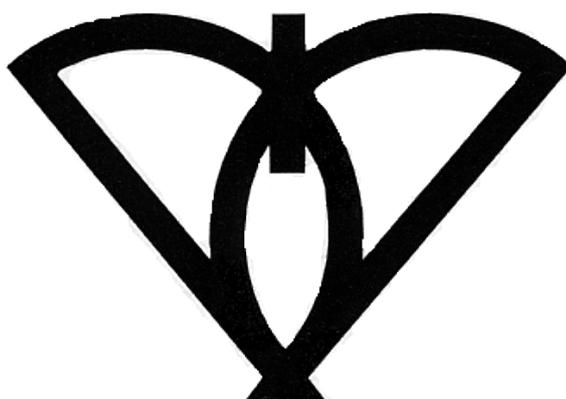


門真市子ども議会

(記録誌)

平成 26 年 8 月 23 日



門 真 市
門真市教育委員会

平成26年門真市子ども議会記録目次

はじめに	1
門真市子ども議会議員名簿	2
1. 開会	
園部市長あいさつ	3
田伏市議会議長あいさつ	4
2. 子ども議会議長、副議長指名	5
3. 開議	5
4. 子ども議員の質問と市長の答弁	
① A班	
まちづくりについて	6
② C班	
福祉について	12
<休憩>	
③ B班	
環境について	19
④ D班	
教育について	25
5. 閉会	
三宅教育長あいさつ	31
議席表	33
写真集	34

はじめに

門真市では、21世紀を担う子どもたちが、模擬議会を通じて自分たちの夢や希望を話し合い、身近な市政や市議会についての仕組みや役割を学ぶとともに、子どもたちに意見を発表できる機会を提供し、市民意識の高揚を図ることを目的として、平成14年度から隔年で「門真市子ども議会」を開催し、今回で第7回目を迎えることとなりました。

子ども議員は6つの公立中学校の1・2・3年生22人が応募し、夏休みの期間中、子どもたちが選んだ4つのテーマについて事前に2回の学習会を開き、さまざまな問題について話し合ったうえで市政への提案や質問をまとめ、平成26年8月23日（土）市議会議場において開催された子ども議会本会議で発表しました。

これは、そのときの記録をまとめたものです。

子ども議会を開催するにあたり、市議会をはじめ、保護者、学校関係者のご理解とご協力に感謝申し上げます。

平成26年10月

門 真 市
門真市教育委員会



第7回門真市子ども議会 平成26年8月23日（土曜日）

門真市子ども議会議員名簿

班とテーマ		氏 名	学 校	学年	性別
議 長		川村 美月	第四中学校	3年	女
副 議 長		富田 佳歩	第七中学校	2年	女
A 班	まちづくり について	篠田 昌明	第二中学校	3年	男
		塚元 七海	第二中学校	2年	女
		豊田 留実	第二中学校	6年	女
		石阪 美咲	第三中学校	3年	女
		富田 佳歩	第七中学校	2年	女
		齋藤 紗希	門真はすはな中学校	3年	女
B 班	環境について	井土下 意	第二中学校	3年	女
		川村 美月	第四中学校	3年	女
		白井 結葉	第五中学校	1年	女
		高見 友歌	第五中学校	1年	女
		松永 悠聖	第五中学校	1年	男
C 班	福祉について	林 ひかり	第三中学校	3年	女
		岡本 拓也	第四中学校	3年	男
		高篠 真梨	第七中学校	2年	女
		坂本 峻平	門真はすはな中学校	3年	男
		田原 果菜	門真はすはな中学校	3年	女
D 班	教育について	石川 あすか	第二中学校	3年	女
		後藤 杏菜	第三中学校	3年	女
		眞山 結伎	第四中学校	3年	女
		乾 優里	第五中学校	3年	女
		岩井 優真	門真はすはな中学校	3年	男
		澤田 孝弘	門真はすはな中学校	3年	男

1. 開 会

◎ 園部市長あいさつ



皆さんおはようございます。

市長の園部一成でございます。

改めまして、この場所から子ども議会議員の皆さんの顔を拝見しますと、今日、今、現在もっておられる強い熱意、パワーが伝わってまいるような感じがし、大変たのもしく感じているところであります。

す。

今回で七回目を迎える子ども議会ではありますが、今回初めて市内の中学生を対象に参加を募り、本日ここに22名の皆さんにご参加いただいたところであります。

誠にありがとうございます。

さて、皆さんがおられるこの場所は、本会議場といえます。

ここでは、市民の皆さんが、安全で安心して暮らせるように、その代表である市議会議員の方々が様々な問題について、話し合い決めごとをする、とても大切な場所があります。

そのような場所で、将来の門真市を支えていかれる若い皆さんが、市議会の運営を直に体験していただくことは、大変有意義であり、ご自身の人生にとっても貴重な体験になるものと思っております。

皆さんは、これまで二回の事前学習会に参加され、市役所の仕事や市議会の仕組み、役割などについて学習をしてこられました。

そして本日、子ども議会議員として、私たちの門真をもっと住みよいまちにするため、一生懸命考えられたご質問をいただくわけであります。

私も皆さんのご質問に精一杯、ご答弁をさせていただきたいと思っております。

そして、この場で皆さんから頂いたご意見やご提案を、今後の門真のまちづくりに活かしていきたいと考えておりますので、何卒よろしくお願い致します。

改めまして、本日傍聴席においででの保護者の皆様方におかれましては、何かとご多用のところ、また、残暑厳しい折にもかかわりませず、子ども議会にお越しをいただ

き誠にありがとうございます。

また、平素より市政の各般に対しまして温かいご理解ご協力を賜っており、重ねて厚くお礼申し上げる次第でございます。

現在、本市におきましては、公民協働を基軸に、自ら生成発展を繰り返していく自律発展都市へ向けた取り組みを強力に進めておりますが、この「公民協働」の考えを明文化した「門真市自治基本条例」を本年1月に施行いたしました。

これにより市民の皆さま、議会および市役所が、それぞれの果たすべき役割を踏まえ、主体的にまちづくりに参画することで、好循環の輪をつくり、まちづくりの活性化を推進してまいりたいと考えています。

その大きな核となるのが、「地域会議」であり、地域の皆様が自ら地域の課題解決に取り組んでいただくための新たな施策であります。

今後とも、誰もが「住みたい」「住み続けたい」と思えるまち門真へと変革させてまいり所存でありますので、皆様方におかれましては、今後とも、より一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本日の子ども議会の開催にあたりまして、多大なご尽力をいただきました保護者の皆様並びに学校長はじめ関係者の皆様方に、心からお礼を申しあげますとともに、最後までご静聴いただきますようお願い申し上げまして、子ども議会開会にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。

◎ 田伏市議会議長あいさつ

皆さんおはようございます。

市議会議長の田伏幹夫でございます。

門真市議会を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本日の第7回門真市子ども議会には、市内在学の中学生21名が子ども議員として参加され、また傍聴席には保護者の皆様や校長先生、担任の先生方、ほか多数のご参加をいただきまして、盛大に、かつ厳粛に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

本日傍聴にお越しくださいました皆様には、日頃より市政並びに議会活動にご理解



とご協力をいただき、心から感謝申し上げます。今後も、より一層のご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

さて、子ども議員の皆さん、今皆さんがおられる議場という場所は、普段は私たち市議会議員が市民の方々の代表として、質問や意見を述べる場所ですが、今日は皆さんが普段から関心のあることや疑問に感じることなどを、リラックスして堂々と発表していただきたいと思います。また、大変貴重な機会ですので、市議会の仕組みや市役所の役割についても、大いに学んでいただきたいと思います。

結びに、皆さんが今後ますます元気で健やかに成長されますよう、お祈りいたしますとともに、ご参集の皆様のご健勝、ご多幸を心より祈念いたしまして、開会に当たっての私からのご挨拶といたします。

2. 子ども議会議長・副議長指名

■ 司会

ただいまから、子ども議会の議長、副議長の指名を行います。学習会の時に立候補していただいて決定しておりますとおり、議長に第四中学校 川村美月さん、副議長に第七中学校 富田佳歩さんを指名いたします。

なお、本日の議事進行は前半を川村議長に、後半を富田副議長にお願いします。それでは、川村議長よろしく願いいたします。

3. 開 議

■ 川村議長

ただいまから、第7回門真市子ども議会を開会いたします。

私は、門真市子ども議会の議長に選ばれました門真市立第四中学校3年の川村美月です。

子ども議会の議事を進行していきますので、皆様のご協力をよろしく願いいたします。



私たち子ども議員22人は、今回、まちづくり・環境・福祉・教育の4つの分野について班別に学習し、疑問に思うこと、提案したいことなどをまとめてまいりました。

「住み続けたいまち・門真」にするにはどうすれば良いのか、一生懸命考えましたので、お聞き頂きますようお願いいたします。

A班の質問 まちづくりについて

■ 質問者 篠田昌明、塚元七海、豊田留実、石阪美咲、富田佳歩、斎藤紗希
の各議員（当日クラブ活動のため欠席 豊田留実）

私たちA班は、「住み続けたいまち門真」をキーワードにまちづくり分野について、意見を出し合いました。



学校への通学や塾・クラブ活動の帰りなどで気が付いたことを、意見として出し合い、安心・

安全に日々の生活を過ごすことが、住み続けたいまちにつながると考えました。

小さな子供たちや高齢者、障がいをお持ちの方まで、市内の人々すべての方々にとってやさしいまちとなるように意見を出し合い、みんなで考えた質問を行いたいと思いますので、これからずっと、市民のみなさんが安心して住み続けることのできるまちづくりについて、お答えください。

まずは、便利できれいな町についてです。

門真市には、夜に暗い道や幅が狭く、車と自転車がぶつかりそうになる道があり、とても危ないです。

また、大きな病院や施設が集中しているため、老人の方が使いにくく不便です。田んぼばかりで交通が不便な地域もあるなど、発展の差が大きすぎると思います。

そこで質問します。

私たちは、子どもたちや、高齢者が過ごしやすいような便利なまちになって欲しいと思うのですが、これから門真のまちづくりはどのように進んでいくのですか。

次に、歩道についてです。

市内の道路は、歩道がないところや、歩道があっても狭いところが多くあり、自動車が通ると、歩くスペースがなくなり、自動車が通らないときに、急いで通るなど、

大変危なく不便に感じます。

登下校時には大勢が一斉に歩いていると、どうしても左右に広がってしまい、自動車や地域の人に、迷惑をかけてしまうこともあります。

私たち子どもや高齢者、障がいをお持ちの人など、安全に安心して道路を利用できるよう、歩道がないところには歩道をつけていただき、歩道はあるけど狭いところでは広くしてほしいです。

また、私たちをふくめて、自転車を利用する人が多いと思われまます。

そこで質問します。

安全にまちを走れるようにするために、市役所ではどのようなことをしています。

次に、公園についてです。

中学生は外で遊ぶと言えば、やはりボール遊びが多いですが、門真市には、ボール遊びができる公園がほとんどありません。中学生の立場としては、ボール遊びも楽しめる広く安全な公園が欲しいと思います。

また、子供だけでなく、老人の方に楽しんでもらえるような公園も必要です。例えば花などで心がいやされる公園や、散歩の途中などに、休憩をしながら気持ちよく過ごせるような公園です。

公園の中には、ポイ捨てされたごみが目立つところや、遊具が安全なものかどうか不安になるところもあります。また、木があるのはいいことですが、多過ぎると、周りからの様子が見えず、痴漢などの被害に合ってしまう可能性があります。

そこで、質問します。

ダイエーの跡地を利用して、ボール遊びや老人の方々に気持ち良く過ごしてもらえりような、広く安全な公園を作ってはどうか。

また、公園にごみ箱を設置し、ポイ捨てを少なくしたり、見晴らしの良い公園や遊具を安全に使えるような公園を増やしていくことはできないでしょうか。

次に防犯についてです。

私たちから門真市の防犯について提案があります。

門真市で生活をしている中で、怖いなど感じる事があって、それは塾の帰りなど、一人で、人があまりいないところを通る時に暗い、ということです。

もっと防犯灯を増やして少しでも安全な道を増やしてほしいです。

門真市で、痴漢や万引きなどの犯罪を減らすために、防犯カメラの設置を増やしたり、私服警官など防犯パトロールを増やして欲しいと思っています。

やっぱり門真市内で、犯罪があつたりすると住みよい街ではなくなると思うので、できるだけ安全に暮らしていけるように、警備をしっかりとすることなどが必要だと思います。

そこで、質問します。

まず、門真市の防犯灯を増やして欲しいのですが、市役所では何かしていることはありますか。

次に、門真市の防犯カメラを、人通りの少ない所などに、増やして欲しいのですが、市役所では何かしていることはありますか。

次に、私服警官のパトロールは、警察になるのですが、市役所でも防犯パトロールなどを増やして欲しいのですが、市役所はそのようなことをしていたりしますか。

最後に、門真市に住み続けたいと思えるように、防犯についてしていることはありますか。

次に、交通安全対策についてです。

僕は、門真市に住んでいて、一つ思ったことがあります。それは自転車で道を曲がる時、人とぶつかりそうになるということです。

その道にはカーブミラーがあるのですが、あまり目立たないので、どこにあるのかよく分かりません。

そこで、どうすれば目立つかというのを考えたところ、カーブミラーの下に、キャラクターの絵が描かれた看板などを設置するというのが思い浮かびました。キャラクターの絵が描かれていると、とても目立ちます。

そして、その看板などに注意の言葉が書かれていたら、その通りにすると思います。

そこで、質問します。

門真から事故を減らすために、イメージキャラクターであるガラスケを看板などで活用してはどうでしょうか。

これまでいろいろな意見や質問をしましたが、少しでも、取り入れていただければうれしいです。

私たちも学校を通じたりして、市役所のお仕事のお手伝いをし、市民の皆さんが、

さらに安心・安全で生活を送れるような門真になればと思います。

これで、A班の質問を終わります。

ありがとうございました。

■ 川村議長

これより理事者の答弁を求めます。園部市長

A班の答弁 まちづくりについて

A班の皆さんのご質問につきまして、私からお答えいたします。

まちの発展には、歴史的経過、地域性があり、今後のまちづくりの大前提としては、同じように暮らせるためのまちづくりと地域特性を活かしたまちづくりの両方が必要であると考えています。

最初に、便利できれいなまちについてであります。

門真市では、第5次総合計画において、重点的に整備するゾーンを定めるとともに、都市計画マスタープランにおいては、市域全体を4つの整備ゾーンと定め、市民の皆さんが「住み続けたい」、「住んでみたい」と感じていただけるような、魅力ある特色を出すとともに、交通や道路の利便性の高いまちとなる門真市の実現に向けて取り組んでおるところでございます。

議員ご提案の「便利できれいなまち」の実現につきましては、地域の方々のご協力を頂きながら、道路を広くし公園・緑地の整備を行い、安全・安心で美しい街並みになるよう事業を進めているところであります。

その一つとして、本市の中心に位置する田園風景が広がる北島地域では、第二京阪道路の開通に伴い、計画的なまちづくりを進めるために、地域のみなさんと一緒に、検討を進めており、実際に進めている地域としては、門真団地周辺のまちづくりや、第一中学校の跡地を活用した門真市の「顔づくり」としてのまちづくりが動き出しています。



まちづくりには、長期間に及ぶことも多々ありますが、愛着が持てるまちづくりとなりますよう、議員の皆さんのような若い人達が次の担い手となっていただき、市民全てが、便利で過ごしやすいまちの実現に取り組んでいただくことが重要であると考えております。

次に、歩道についてであります。

現状につきましては、議員が言われたとおりであり、不便なところがあることは認識をしており、歩道が設置できないところは、小学生の通学路などを中心に、緑色のカラー舗装を施す取り組みを進めており、引き続き、カラー舗装の道路を増やしてまいりたいと考えております。

また、自転車マナーを向上させるためのルール作りの検討や、市内には水路が残っておりますので、これを道路として有効に活用できるところでは、水路に蓋をして、その上に自転車あるいは歩行者専用の道路を造る取り組みも進めておるところであります。

次に、公園についてであります。

まず、ご提案のダイエー跡地の空き地の活用につきましては、体育館の建設予定でありまして、その地域に公園を造っていく考えがあり、この公園は、地震やあるいは火災等の大災害のときに、皆さんが一時的に避難できる場所や、被災したまちの復旧活動の拠点として使えるよう、防災機能を備えたものにしたいと考えております。

議員ご提案のボール遊びなどにつきましては、これから具体的に公園建設の計画を作っていく中で、検討をしていくことになるものと考えております。

また、他の地域であります、現在、東田町にある桑才市営住宅跡の空き地を利用いたしまして、公園を造る計画を進めておりますが、その中で、今回議員のご意見を受けまして、キャッチボールなど簡単なボール遊びができる程度のものを検討してまいります。

次に、ごみ箱の増設については、公園にごみ箱をあまり置かず、利用する時に出るごみは、それぞれが持ち帰っていただくことで、美しいまちや公園につながりますので、周りの方々と、公園などの美化について話し合いをしていただくことが大切だと考えております。

また、見晴らしの良さや遊具などが利用しやすい公園となるよう、地域の方々と協

働をしながら進めてまいります。

次に、防犯についてであります。

現在、市内に約 6,700 灯の防犯灯を自治会に設置いただいておりますが、市役所では、設置や交換にかかる費用の補助や電気料金の補助を行っております。また、防犯灯のLED化についても、毎年 1,000 灯ずつ計画的に切り替えております。

次に、防犯カメラにつきましても、警察や自治会と協働し、市役所からの全額補助により、毎年 10 基から 16 基程度を設置いただいております。

次に、防犯パトロールにつきましても、それぞれの地域において、危ない箇所などのパトロールを実施していただいております。市役所では、啓発活動として、地元の方々や警察と協働して、小学校の校庭等を利用して、防犯キャンペーンの開催をいたしております。

次は、9月7日、日曜日に速見小学校体育館にて開催をしますので、ぜひ参加いただければと思っております。

次に、住み続けたいと思えるようなことにつきましては、市役所では、ひたくりや路上強盗などの犯罪をなくし、皆さんが安心して塾やクラブ活動から帰れる新たな取り組みとして、交通安全対策で提案していただいたガラスケの表示は、本市独自の取り組みとして、非常に興味のある提案であり、そのご提案を活用し、防犯灯にガラスケをデザインした啓発ステッカーを地元と協働で貼る事業の検討をしたいと考えております。

議員の皆さんも犯罪などに巻き込まれないように注意をしていただきますように、お願いをいたします。

次に、交通安全対策についてであります。

議員ご提案の、ガラスケの表示は、先ほど防犯で申し上げましたが、非常に興味のある提案であると思っておりますので、交通安全対策としても、検討させていただきます。

まちづくりを進めることは、安全・安心に日常生活を送っていただく上で、大切なことでもあります。

A班の議員の皆さんの質問を聴いておまして、改めて、住み続けたいまちの実現のために、まちづくりの大切さを強く認識したところであります。

これからも、その思いを持ち続けていただき、もっと門真のまちが良くなるように、

ご協力いただきますよう、よろしくお願いを申し上げまして、A班の質問についての答弁といたします。

■ 川村議長

これでA班の質問を終わります。

次に、C班の皆さんを指名いたします。

C班の質問 福祉について

■ 質問者 林ひかり、岡本拓也、高篠真梨、坂本峻平、田原果菜の各議員

私たちC班は、「住み続けたいまち 門真」をキーワードに、福祉分野について、意見を出し合いました。

今、門真市の人口は減り続けています。

門真市のホームページで統計を見ると、平成5年に14万3,223人だった人口は、平成25年には12万7,862人になりました。

門真市で住みたい、住み続けたいと思う人が増えていくためには、誰もがあたたかく明るい気持ちで暮らしていけるまちを作っていくことが大切です。

特に、高齢者、障がいのある人、仕事を失った人、赤ちゃんを育てている人など、日常生活の中で、大変な思いをすることが多い人たちが、安心して暮らしてゆけること、前向きな気持ちで元気に過ごせることは、とくに大切だと思い、質問をさせていただきます。

すべての人たちが、暮らしやすくなるために必要な福祉について、お答えください。まず、地域福祉の啓発推進についてです。

今、門真市には、足や目、耳などが悪い高齢者の方がいます。例えば、道がデコボコしていて車イスが進みにくかったり、手動の車イスが道路を渡り切れなかったり、階段の段差が高くて、登りきれない人もいます。

足の不自由な人、車イスの人にとって、ほんの少しの小さな段差でも、大きな障害物になってしまいます。



さらに、歩道に捨てられた粗大ごみがあれば、その道を通れなくなる人もいます。

ほかにも、道が交差する所で自転車に乗っている人が、ベビーカーや車イスの人に気づかず接触し、ケガをしてしまうこともあります。

それに、交差する道や、少し長い横断歩道の途中で、車イスや、足の悪い人が止まったり、遅れてしまうと事故になってしまいます。

目の悪い人は、信号が赤なのがわからなく、渡りかけてしまったり、耳が悪い人も、自動車などの音に気付かなくて、事故になってしまうこともあります。

では、このような様々な問題はどのようにすればよいのでしょうか。

私たちはこのように考えました。

車イスの人や ベビーカーの人でも通りやすいように段差をなくします。そして駅などの階段は近くにスロープと手すりを取りつけます。目の見えない人のために、大きな道路や事故の多い危険な道の信号に音をつけます。これは、高齢者や子どものためにもなります。

放置自転車は多い所を中心に看板やポスターをはって呼びかけをします。

また、ベビーカーや車イスに気がついた時や角をまがる時、ベルをならすように心がければ事故も減ると思います。

スロープをつけたり、信号に音をつけたりするのは、たくさんお金もかかるので、今すぐに実行にうつすのは難しいかもしれません。でも、ポスターをはったり、自分たちが心がけたりするのは、簡単にできるので、市全体で取り組めば、少しずつ住みやすいまちになると思います。

そこで質問です。

このように啓発推進の問題について、門真市は、どのように取り組みを考えておられるでしょうか。

そして、自分たちにも協力できることは何かありますか。

次に、高齢者の就労推進と働く母親支援についてです。

人間が生活していくには、収入が必要です。

収入を得るには、まず、仕事を探さなければなりません。

しかし、年齢制限があったり、資格がないとできないものが多く、また、働ける時間に制限があったり、期限があったりで、思うような仕事を見つけるのは大変なこと

らしいです。

それに赤ちゃんを育てている母親は、赤ちゃんを一人にできないので仕事に行きにくい、働きにくいなど、困ったことがあります。

赤ちゃんを育てている家庭で、母親がしんどそうにしていたら父親が手伝ってあげる、祖父母の家に預ける、保育園に預ける、このようなことをして、母親もしっかり仕事や、睡眠もでき、赤ちゃんも一人にならずに済むと思います。

しかし、このようなことができない家庭の場合は、定年退職をされていて、もっと働きたいと思っている高齢者の力を借り、活躍していただくとよいと思います。

また、仕事が忙しすぎて、自分の生活がままならない人が多いことも事実です。

だから、そういう人たちの仕事について、仕事をしたいと思っている人に分ければよいと思います。

そして、労働者がたくさん必要な場所と言えば、大きな市民病院や、大型ショッピングセンターだと思います。

資格を持っている人を中心に、その人を取り巻く仕事の一つひとつを細分化していけば良いのではないのでしょうか。

その中で資格がなくてもできる仕事などを、もっと働きたいと思っている高齢者の人に任せたらいいと思います。

そうすることによって、少なくとも仕事の数は増えていくでしょう。

そこで、質問します。

今まで、話をしました二つの問題を合わせて考えれば、どちらも解決すると思いますが、門真市ではどのように考えておられるのでしょうか。

次に学校施設の充実についてです。

地震などの自然災害がおきた時、福祉サービスを必要とする人々も特別な苦勞をあまりせず、過ごせるようになるといいと思います。

災害がおきた時、避難所になるのは学校です。でも、その学校の設備が整っていないと困ります。

例えば、まちでも同じことが言えますが、体育館の周りの段差や階段です。

また、バリアフリーのトイレがなかったり、少なかったりします。

では、このような問題はどうすればよいのでしょうか。

私たちはこう考えます。

段差や階段の近くは スロープと手すりを取り付けます。バリアフリーのトイレを増やします。この二つの問題の解決は普段の学校生活の充実にもつながります。

足にケガをしてもスロープがあれば楽にのぼることができます。バリアフリーのトイレは支援学級に入っている子どもみんなが使いやすいので増やしてほしいです。

そこで質問です。

学校の中のそういった設備は十分でしょうか。

また、具体的にはどのような設備が整えられているのでしょうか。

最後に、立場や年齢に関係なく、全ての門真市民が幸せに暮らしていくことが大切なことでもありますし、また、市役所の方々の力がないとできないこともあります。

「住み続けたいまち・門真」の実現に向けて、それぞれの力が生きるようなまちづくりをよろしくお願いします。

これでC班の質問を終わります。

ありがとうございました。

■ 川村議長

これより理事者の答弁を求めます。園部市長

C班の答弁 福祉について

C班の皆さんのご質問に、私からお答えを申し上げます。

まず、地域福祉についての啓発推進についてであります。

議員ご提案のように、段差の解消をはじめとします、様々な取り組みを行うことは、大切な事でありまして、お困りになられている方に対して、周りの方々が助けてあげる、という事も大切なことであると考えております。

市役所では、地域の人と人とのつながりを大切にし、お互いに助けたりする関係や、その仕組みをつくっていくために「門真市第2期地域福祉計画」の策定をいたしてお



ります。

計画の中で、市民、地域の団体やボランティアと市役所の三者がともに協力して「地域ぐるみの福祉」を進めることとし、誰もが安心して暮らせるよう、地域の住民がお互いに支え合うことの大切さを理解し、手助けしようという気持ちを広めていくために、市役所ではさまざまな機会をとらえて啓発活動を実施いたしております。

毎年12月3日から12月9日の「障がい者週間」に、京阪門真市駅前や古川橋駅前
でキャンペーンを実施しており、障がい者の福祉についての関心と理解を深めていただきますとともに、障がい者が社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動へ積極的に参加する意欲を高めいただくことを目的として、啓発物品を配布していますので、議員の皆さんも一緒に活動していただければ、もっと相互理解が深まるものと思っております。

市民一人ひとりが日頃から意識を持って行動し、支援が必要な人と関わっていただくことが、家族や友達に広まり、そしてその輪が地域全体に広まることが「地域ぐるみの福祉」につながっていくものと思いますので、市役所も、引き続き、いろいろな方法や機会をとらえながら啓発活動に取り組んでまいりますので、議員の皆さんも支え合いの意識を持って地域福祉の向上に参加・協力をしていただきますよう、よろしくお願いを申し上げます。

次に、高齢者の就労促進と働く母親支援についてであります。

皆さんが、元気な高齢者の就労を促すとともに、その労働力を活用して、働く父親・母親の子育て支援についての解決策を考えられていることは、とても大切な提案であり、有効な方策であると考えております。

本市では、現在、このような考えに基づき、地域子育て支援の一環として、高齢者を含む地域全体で、子育て中の家庭を支援していくことを目的として、ファミリー・サポート・センター運営事業を実施しており、センターは、育児の援助を行いたい人と、育児の援助を受けたい人が会員となり、会員間で保育所へのお迎えや、その後の預かりなど、子育ての援助活動を実施する、有償によるボランティア組織であります。

センターにおける過去3年間の援助活動件数は、増加傾向となっており、この増大するニーズに応えるためには、育児の援助の担い手となる会員を増やす必要があり、その解決策の一つとして、議員ご提案は、高齢者の方々の子育て経験やあるいはノウ

ハウを活かすことができ、さらに、子育て世代との世代間交流や、生きがいにもつながると考えられるため、子育て支援への意欲がある高齢者の皆様に対して、就労促進の足掛かりとなるよう、センターの周知を図り、女性が安心して子どもを産み、育てられ、仕事が続けられる環境の整備に努めてまいりたいと考えております。

また、市役所では、子育て支援のために、様々なサポート体制も組んでおります。次に学校施設の充実についてであります。

現在、大阪府にて、施設整備を行う際に福祉の視点で配慮を行うことを義務付けている「大阪府福祉のまちづくり条例」があり、門真市も公共施設の整備を行う際には、当然、配慮をした整備を十分に行っております。

その中で、議員の皆さんが利用している学校施設につきましては、福祉のハード面を充実させるために、大規模改造工事の際には、障がいを持たれている児童・生徒が学校生活において支障のないように、具体的には、エレベーター、階段や廊下などには、手すりの設置、トイレにつきましては多機能トイレを設置するなどの配慮をいたしております。

また、全学校へのエアコン設置につきましては、府内では2番目に導入するなど、他の市町村より、早く改善を行い、個別の対応が必要な児童・生徒が入学予定の場合は、施設整備が必要と判断すれば、ご本人及び保護者の方と、入学予定先で打合せを行い、入学までに学校施設の整備なども行っております。

議員のご提案にもありましたように、学校施設は避難所とも位置付けており、今後も障がいを持たれている方をはじめ、すべての市民が安心・安全に利用できるよう、各小・中学校の施設改善に努めてまいります。

今の日本は、少子高齢化が進んでおりまして、日本全体の人口が減少していく状況にあります。

門真市も例外ではなく、これから人口は減少をしていき、高齢者を支える人が30年後には、今の約半分の人たちで支えていかなければならない時代となることが予想されています。

C班の議員の皆さんの質問を聴いていまして、みんなで支えあうという気持ちを持ち続けていただくことで、門真市が自ら生成し発展していくことのできる「自律発展都市」の実現が可能になるものと感じました。

これからも、その気持ちを持ち続けていただきまして、人にやさしい大人になっていただきますよう、お願いを申し上げます、C班の質問についての答弁とさせていただきます。

■ 川村議長

これでC班の質問を終わります。

この機会に、午前11時10分まで休憩いたします。

< 休憩 >

■ 富田副議長



それでは、ひきつづき会議を開きます。

私は、門真市立第七中学校2年の富田佳歩です。議長にかわりまして議事を進行して参りますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

次に、B班のみなさんを指名いたします。

B班の質問 環境問題について

■ 質問者 井土下意、川村美月、白井結葉、高見友歌、松永悠聖の各議員

私たちの班は、「環境～住み続けたいまちKADOMA～」をテーマにし、話し合いました。

門真の課題は、おかしの袋や空き缶、たばこの吸いがらなどを、道路や公園に平気でポイ捨てをしている人が多く、それを見ると、ごみに対する意識の低さが分かります。

ごみが落ちていると門真の評判は悪くなり、門真に住んでいる人は、気持ちよく過ごせないし、そのことで、門真に住んでいたいと思う人も少なくなってしまうと思います。

また、たばこによる受動喫煙や、空き缶やペットボトルを踏んで、こけてケガをしてしまう危険も多くなります。



それを防ぐためにも、たくさん話し合いました。

ごみがない門真。きれいな門真。この門真にずっと住んでいたい。

わたしたちの班は門真をそんなまちにしたいです。

今から、私たちの意見を提案しますので、聞いてください。

まず、今、私たちが環境について問題としている課題は、おかしの袋、空き缶、たばこの吸いがら、ペットボトル、包装などの「ポイ捨て」です。

ポイ捨てを減らすために、私たちが考えたことは、公園や信号の近く、バス停にごみ箱を設置することです。

公園やバス停にはごみがたくさんあるので、ごみ箱があればそのごみが減ると思うからです。それに、信号の近くにごみ箱があれば、止まる時にごみを捨てることができるからです。

この三つの場所にごみ箱を設置すれば、ポイ捨てが減ると思います。

そこで、ごみのポイ捨て対策について質問します。

現在、ポイ捨てをなくすために、どのようなことをしていますか。

また、きれいなまちで暮らしたいと思っていただける取り組みが必要だと思うのですが、何か良い方法はありますか。

今、私たちが問題としている課題は、ポイ捨てをする事をあまり悪く思っていないくて、一人ひとりのごみに対する意識が低いことです。

その課題から、清掃ボランティアの活用をして、今よりももっと呼びかけをしてみたり、ポスターなどを増やしてみたりしたらいいと思います。

清掃ボランティアを多くの人にしてもらう事によって交流が深まったり、良くなったりなどと、良い効果がたくさんあります。

この事を色々な人に知ってもらくと、少しはごみに対する意識が高まると思いますし、門真で住み続けたいと思えるようになると思います。

そこで、清掃ボランティアについて質問します。

清掃ボランティアをしている人たちに、市役所はどのようなことをしていますか。

私たちが、清掃ボランティアに参加しようとするれば、どのようにすればいいですか。

次に学校と地域での集団回収の奨励についてです。

私の学校では、生徒会活動で、壊れたウォータークーラーを皆で買い換えようと、

古紙回収に取り組んでいます。

思っていた以上に沢山の人が協力してくれて、とても嬉しい気持ちになりました。

市内で、もっと集団回収を行えば、ごみの意識が高まり、地域の人とも交流できます。市民の人々全員が、何かのために一つのことを協力することで結束が生まれ、他人の事を思いやる、優しい人が多いとても良いまちになると思います。

B班では、門真市とコンビニエンスストアが協力し、空き缶やペットボトルを持って行ったら、何蓮かが返ってくるようにしたらいいという意見も出ました。

何事も、色々な人の協力や支え合いが、良い環境を生むんだと思います。

そこで、質問をします。

集団回収をしたら、市役所はどのようなことをしてくれるのですか。

私たちも学校を通じて、地域の人たちと集団回収に参加して、みんなの意識を高めたいので、奨励してもらえますか。

以上が住み続けたいと思える門真市にするために私たちが話し合ってきた提案と質問です。

この他にも、住み続けたい門真市にしていくために電線を地下に通したり、喫煙禁止条例を定めたらいいという提案が出されました。

それは、電線を地下に通すことで、電線が多すぎる門真市が電線のない門真市になり、空が見えやすくなるので門真市が明るくなって住み続けたいと思えるまちになります。

また、喫煙禁止条例を定めることで、受動喫煙の被害が少なくなるし、たばこの吸いがらも減ると思います。

このように、住み続けたい門真市をつくるための提案がたくさんあるので、これらの提案が生かされたら、門真市は住みやすくなると思います。

これでB班の提案と質問を終わります。

ありがとうございました。

■ 富田副議長

これより理事者の答弁を求めます。園部市長

B班の答弁 環境問題について

B班のみなさんのご質問に、私からお答えをいたします。

まず、ごみのポイ捨て対策についてであります。

全ての市民の方々が、ごみ問題を意識し、マナーの向上に努めていくことで、道路などのごみを無くしていくことに繋がると考えていますので、門真市では、ごみのないきれいなまちを作っていくため、

「門真市美しいまちづくり条例」を定め、道路などの公共の場所におきましては、ごみ箱以外の場所にごみを捨ててはいけないと決めております。

法律や条例で罰則や命令を与えごみを規制することも必要なことであると考えますが、市民の皆さんに、「美しいまちで気持ちよく住みたい」というそういう気持ちに気付いていただき、道路などにごみを捨てるのは

止めようと思っただけでなく、一番大切だと思っております。

また、きれいなまちで暮らしたいと思っただけの取り組みとしては、議員ご提案のように、きれいな門真市で暮らしたいという気持ちを持っている人々が中心となり、すべての地域の方々に清掃活動に参加していただき、「門真をもっと美しいまちにしていこうという心」を一層、育んでいただけるよう、地域と市役所が協働して働きかけていくことであると考えております。

次に、清掃ボランティアの活用についてであります。

市役所では、まちをきれいにするため、地域清掃活動の支援を目的として、月に1回以上清掃活動を行っていただいている自治会や会社に対して清掃用具一式をお渡しする事業を実施しております。

また、市民、事業者との協働により美しいまちづくりを推進するため、「門真市美しいまちづくり推進協議会」を設置しており、市役所だけでなく市民団体や事業者な



どが集まり、一緒にまちをきれいにしようと呼びかける活動などを行っております。

今年は、9月6日の土曜日に美化に関する啓発活動と清掃活動を行いますとともに、同日から13日までを「門真市清掃ウィーク」として、市域全体での清掃活動をボランティアで行っていただくことを予定しておりますので、議員の皆さんもぜひ参加をお願いしたいと思います。

また、今年1月より、門真市自治基本条例が施行され、中学校単位を基本とした地域会議が、今、地域の市民により、結成されると、議員の皆さんも地域の一員として活躍できるが増えると考えております。

市役所では、ごみの収集や焼却などを行うだけではなく、市民や事業者の皆さんなどと、さまざまな事業や美化活動を行いながら、地域との協働でまち美化の推進やマナーの向上にも、引き続き、取り組んでまいりたいと考えております。

次に学校と地域での集団回収の奨励についてであります。

門真市では、市民のみなさんに、ごみの分別収集と資源化にご協力をいただいております、地域での取り組みを奨励するため、「再生資源集団回収奨励金」交付制度を設け、今年度も1,385万円を予算化しており、現在、約120の自治会、子供会、PTAなどの団体で、年間約3,000トンもの古紙などが資源として回収されています。

議員ご質問の集団回収の参加への奨励につきましては、地域や、各学校PTAで集団回収に取り組んでいただくことが、たくさんの人の意識を高めるのに大変有効な方法であると思っております。

市役所といたしましても、学校において、生徒会活動や学校行事等で、集団回収に参加されることとなりましたら、地域や各学校PTAに働きかけをしてまいりますとともに、ゴミの資源化等への啓発も強めてまいります。

今後につきましても、環境、特に、ごみに関する問題は、議員ご指摘のように、「市民のみなさん、一人ひとりで意識を高めていただくこと」が重要であると考えており、広報、ホームページに加え、自治会回覧などを通じて、制度の周知、問題提起等を行ってまいりますので、議員の皆さんにも、ごみの減量や美化活動へのご協力をお願いいたします。

ごみの問題につきまして、昔は、燃えるごみと燃えないごみだけに分けて、処分をしておりました。

その結果、空気や海が汚れ、世界の気温が上昇する地球温暖化につながり、南極の氷までもが解けていく世の中になってしまいました。

それではよくないため、ごみはできるだけ出さないように工夫をし、どうしても出るごみについては、みんなで分別を行い、使えるものは再利用するなど、自分たちの周りだけがきれいであればいいのではなく、地球全体の環境に配慮をした行動が大切になっております。

B班の議員の皆さんのご質問を聴いておりまして、その心掛けが、門真市にはありませんが、山や海を守っていくことにもつながっていきま すので、今後におきましても、その気持ちを大切に持ち続けていただきますように、お願い申し上げまして、B班の質問の答弁といたします。

■ 富田副議長

これでB班の質問を終わります。

次にD班の皆さんを指名いたします。

D班の質問 教育について

■ 質問者 石川あすか、後藤杏菜、眞山結伎、乾優里、岩井優真、澤田孝弘 の各議員

私たちD班は、教育分野についてなので、ふだん、学校の授業で、勉強していて感じたことや、図書館など学校以外で勉強していて感じたことが、「住み続けたいまち・門真」につながると考え、意見を出し合いました。



これから、みんなで考えた質問を行いたいと思いますので、よろしく願いいたします。

私たちは、門真市の中学校で勉強しています。

普段の学習風景は、先生の話、解説を聞いてノートを取るという事が基本のスケジュールです。

その中で特に英語では、デジタル教科書を使った授業があり、良い発音で英語が聞

けるのでとても便利です。

中には、少人数教室で勉強することもあり、わからない所を教えてもらいやすく、理解しやすいです。

また、ゲームや歌などで 楽しく英語を勉強することが出来ます。

教科書の内容ごとに動画とCDがあり、ストーリーがつかみやすくなります。

また、英語と日本語の関係が理解しやすくなります。

CDには、内容ごとにリスニング問題があり、練習にもなります。

このようなことをする授業は、教科書を使うような授業に比べ 英語に関心を持つことができます。

私たちは、英語の必要性について、次のように考えています。

現在、経済の中心国や 世界の国々の多くが英語を使い、英語の需要が高くなってきています。

学校の英語教育以外で門真市では英語のプレゼンテーションコンテストで入賞した中学生が海外へ留学するという事が行われています。

このことにより、英語への興味、関心が高まっていると思います。

このコンテストでは、対象が中学1年、2年と狭く感じられます。

この範囲では、中学生やそのご家族の方々が主に興味を持ち、他の地域の方々は知らなかったという事になるかもしれません。

私はこの事に興味を持つ、一般の方にも、参加資格のある国際的な行事がより増えればと思います。

海外留学だけではなく、門真市に住んでいる外国人と地域住民との交流などの行事が、充実していければいいと思います。

英語を話すことができれば、将来にできる事や海外旅行などの楽しみが増えると思います。

地域で催される行事などで英語にふれ合う機会を増やし、国際化していければ良いと思います。

そこで、質問します。

まず、英語のプレゼンテーションコンテストの海外派遣について質問します。

海外留学の機会を増やすために、拡充することも大切ですが、このような海外派遣

研修を長く続けることで、今の小学生のみんなも海外に行けるので、続けて欲しいのですが、市役所はどのように考えていますか。

次に、英語教育について質問します。

学校での海外との交流をすると、英語に興味を持つ生徒が増えると思うので、やって欲しいのですが、可能ですか。

次に、図書館施設の充実について質問します。

私たちは、学校の勉強や調べ学習をする時に図書館を利用します。図書館には、普段見かけない本があり、静かな環境で本を読むことができます。また、借りたい本が見当たらない時など、予約することで借りることができます。

しかし、図書館を使っていると、不便に感じる場合があります。例えば、本の場所が分かりにくくて、見つけるのに時間がかかります。また、本を読もうと思ったら席が空いてなかったりします。通路がせまくて お母さんと子どもが一緒に通ると、通りにくそうにしているのを見かけたりします。

たくさんの方が使う図書館なので、気軽に使いやすい図書館になってほしいです。

私たちが話し合った 門真市の図書館のイメージとして、若い人が少ないということでした。

若い人が少ない理由として、図書館に行かなくても学校の図書館で借りられたり、わからないことを、本で調べなくても、パソコンやケータイで、簡単に調べることができるというものもあって思いました。

他に本を読むだけでは飽きてきたり、本の場所が分かりにくいことも理由として挙げられました。

その課題を改善するために、図書館にCD、DVDを見る部屋を設けたり、年齢に応じた本に分けたりするのが良い案だと思いました。

その他、勉強会を開いたり、休みの日などに、長く勉強できるように飲食スペースを作ったり、わからないことを調べるために、パソコンをもっと置いたり、自習室をより良くしていけば、もっと若い人の利用者も増えるのではないかという意見がありました。

私たち、中学生にとって、図書館は必要な場所だと思います。

門真市には、図書館を利用したいと思っている人はきっと多いと思います。

そこで、質問します。

図書館の中で長く勉強するため、飲食ができるようになりませんか。

個別に勉強ができるスペースを設置することはできますか。

またDVDの視聴スペースを設置したり、調べる学習をするためのパソコンを増設することはできますか。

DVDを視聴するスペースを増設してほしいというのは、DVDを貸出しするのであれば、視聴するスペースがあっても良いのかと思います。

パソコンを増設してほしいというのは、調べ学習が宿題に出た時に、本にのっていないことがパソコンには、のっているかもしれないので宿題がやりやすいのではないのかと思います。

また、現在、新しい図書館が計画されていると聞きましたが、今の図書館との違いがあるのでしょうか。

以上で、D班の質問を終わります。

ありがとうございました。

■ 富田副議長

これより理事者の答弁を求めます。園部市長

D班の答弁 教育について

D班の皆さんのご質問について、私からお答えをいたします。

まず、英語プレゼンテーションコンテストの海外派遣について、お答えをいたします。

英語は、約80の国や地域で、約5億人が使用している言語であり、英語プレゼンテーションコンテスト及び中学生海外派遣研修は、単なるスピーチコンテストだけではなく、英語を活用して、門真市と世界を舞台に活躍するグローバルな人材をどう育成するかを目的として実施しております。

また、英語に親しむ機会づくりとして、小学生を対象にしたこども英会話講座「キ



「イングリッシュ・イン門真」、いわゆる「ケイク」を市内3か所で実施し、多くの児童が英語に親しむ機会づくりを行うとともに、引き続き、海外派遣研修事業を行い、実践的な英語によるコミュニケーション能力を高めていくことによる学ぶことの大切さ、楽しさを経験していただき、これから国際社会でみなさんが活躍できるように英語力向上のお手伝いをしていきたいと考えております。

次に、英語教育についてであります。

議員ご提案の学校での海外との交流についてであります。さらに英語に興味を持っていただける方法など、あらゆる角度から交流の仕方につきまして検討を行ってまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

次に、図書館施設の充実についてであります。

現在の市立図書館につきましては、議員ご指摘のとおり施設の狭さが問題でありそれに起因して、飲食スペースや個別勉強スペース、十分なCDやDVDの試聴コーナーの確保は困難であります。これを踏まえ、現在計画しております図書館を含む生涯学習複合施設におきましては、ゆとり、明るさ、快適性、わかりやすさに配慮をしたものを計画しております。

また、今の図書館との違いについてであります。新しい生涯学習複合施設では「地域とともにコミュニティを育む 文化・学習の交流拠点」を基本コンセプトに、飲食スペースや図書館の参考資料などを持ち込める個別学習スペースと友人同士でも利用できるグループ学習スペース、CDやDVD視聴ゾーン、10代に合わせたライトノベルや雑誌などを配置したティーンズゾーンを検討しております。さらにさまざまな年代の方が「利用したい」あるいは「利用しやすい」図書館を目指してまいりたいと考えております。

これまで、市役所では、教育の向上が大切なことであるとし、皆さんの学習力が高まるよう、学校やPTAの人たちなどと話し合いも行い、先ほどのご答弁でも言いましたが、全小・中学校へエアコンの設置、電子黒板やパソコンを活用した授業の導入、科目によっては、少人数での授業の開催、英語プレゼンテーションコンテストの開催あるいは海外派遣研修の実施などを行っております。

また、今年度からは、勉強がしやすくなりますように、学年によっては、1クラスを35人以下にして授業を受けていただく取り組みも実施しております。

D班の議員の皆さんの質問を聴いていまして、これからも、学校や学校以外でも、勉強が楽しくできるようにすることの大切さを改めて感じました。

その思いを持ち続けていただき、門真市だけにとどまらず、あらゆる場面において活躍をしていただけるような、立派な大人になっていただきますよう、お願い申し上げます。D班の質問についての答弁とさせていただきます。

■ 富田副議長

これでD班の質問を終わります。

本日、この本会議場で 子ども議員になって園部市長にご答弁頂くという貴重な体験をしました。

今回の経験を活かし、これからも門真市を「住み続けたいまち」にするにはどうすれば良いか、引き続き考えていきたいと思えます。

これをもって、第7回門真市子ども議会を閉会 いたします。

5. 閉 会

◎ 三宅教育長 あいさつ

本日は、市内各中学校から 22 名の生徒の皆さんに参加していただき、初めて中学生を対象とした「子ども議会」を開催することができました。

傍聴席には、保護者の皆様をはじめ、多数の関係者の方々の出席をいただき、厳粛かつ盛大に、心より御礼申し上げます。ありがとうございます。

さて、本日参加した子ども議員の皆さま方は、門真市のこれからの姿を創造し、その実現に向けて、これまでに 2 回にわたって各班で話し合われたり、あるいは学ばれたりされました。本日は、そこでまとめられたものを、意見や質問といった形で全員に発表していただくことができました。

さすがは中学生、門真市の将来、未来や、これからの社会を真剣に考えていただい



た意見や質問であったと思い、感心いたしました。

皆さん方が今日の議会で提案してくれた「まちづくり」「環境」「福祉」「教育」についての意見は、市長の答弁にもありましたように、本市の施策を進める上で、非常に参考になる内容が多数盛り込まれておりました。これからの時代の担い手として、このような考えや意見を堂々と提案していただけることに、門真の中学生の持っている力を見せていただいた気がいたします。

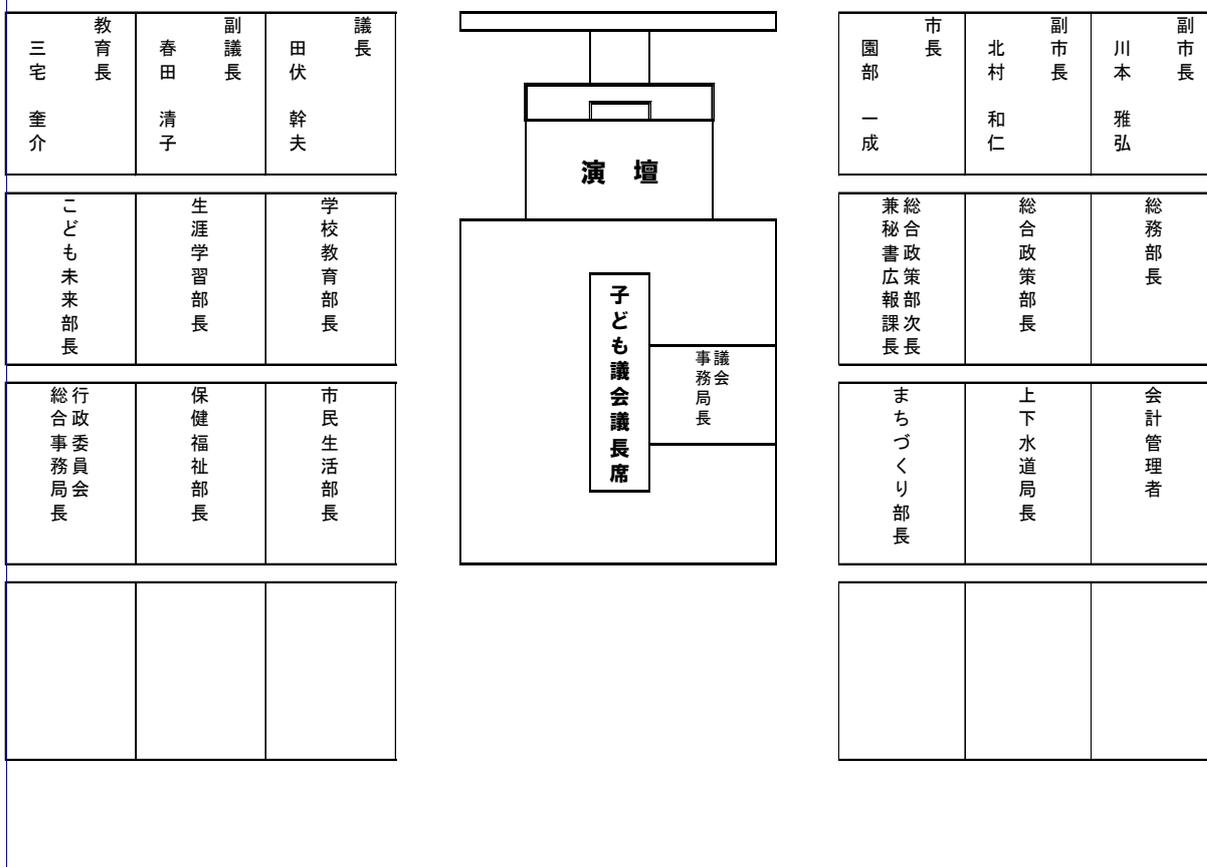
これから皆さま方が、この経験を大いに生かして、それぞれの学校で、あるいは地域でいっそう活躍されることを心より願っております。

閉会に当たりまして、本日、傍聴にお越しいただいた保護者の皆様方並びに関係者の皆さま方に心より感謝を申し上げます。今後とも、門真の子どもたちが心豊かでたくましく育つことができるよう、ご協力をお願いいたしまして、「第7回子ども議会」の閉会の挨拶とさせていただきます。

第 7 回 子 ども 議 会 議 席 表

第四中学校 岡本 拓也 15	第七中学校 高篠 真梨 16	はすはな中学校 坂本 峻平 17	はすはな中学校 田原 果菜 18	第四中学校 眞山 結伎 19	第五中学校 乾 優里 20	はすはな中学校 岩井 優真 21	はすはな中学校 澤田 孝弘 22
C				D			
第三中学校 石阪 美咲 7	第七中学校 冨田 佳歩 8	はすはな中学校 齋藤 紗希 9	第三中学校 林 ひかり 10	第二中学校 石川 あすか 11	第三中学校 後藤 杏奈 12	第五中学校 高見 友歌 13	第五中学校 松永 悠聖 14
A				B			
第二中学校 篠田 昌明 1	第二中学校 塚元 七海 2	第二中学校 豊田 留実 3		第二中学校 井上 下 意 4	第四中学校 川村 美月 5	第五中学校 白井 結葉 6	

質 問 席



■ 第1回事前学習会（8月6日 大会議室）

A 班



B 班



C 班



D 班



■ 子ども議会開会（8月23日 市議会本会議場）

A 班の子ども議員

（左から塚元、石阪、篠田、富田、齋藤の各議員、丸の中は豊田議員）



B 班の子ども議員

（左から松永、高見、白井、川村、井・下の各議員）



C 班の子ども議員

(左から坂本、岡本、高篠、林、田原の各議員)



D 班の子ども議員

(左から澤田、岩井、眞山、乾、石川、後藤の各議員)

